

2026(令和 8)年度
大阪府内地域連携プラットフォーム
事業報告書(上半期)

2026(令和 8)年 9 月

課題1 大学と高校の有機的な接続・連携の強化

月	会議	行事等
4		オープンキャンパス情報 HP 掲載（常設）
5	第1回推進委（18日）	
6		大阪の大学「学び」WEB フェア HP 更新（22日）（常設） 高校から見た大阪の高等教育の魅力と大学間連携に関する調査実施（8月31日まで）
7	第1回部会（8日）	大阪の大学「学び」WEB フェア周知チラシの作成・配布（140,000部）
8		高校生応援プロジェクト HP 更新（26日）（常設）

取組1 高大連携フォーラム https://www.consortium-osaka.gr.jp/staff/koudai_forum

目標	・高大双方が高大接続の大きな環境変化に関する情報を共有している。 ・高大接続の諸問題を高校と大学が対等な立場で継続的に検討している。
数値目標	・活用割合：会員大学数の60%以上の参加大学数／各年 ・参加者比率：大学と高校からの参加者数が同程度／計画期間内
活動指標	・開催回数：1回以上／各年
実績	・1回開催予定（10月14日）

- ・「高大連携フォーラム」は、2005年より継続して開催しており、大阪府内の高校と大学が各々の教育実践について共有し、今後のより効果的な連携方法の模索と教育改革を促進するための機会となっている。
- ・今年度は、高校における探究学習の実践を起点とし、高校・大学間の接続に加え、社会とのつながりにも目を向け、高校・大学・社会の接続のあり方とその課題について実質的な議論を行う予定である。

<開催概要>

テーマ：探究学習は、社会にどうつながるのか — 高校・大学・社会の接続を再考する —
 日時：2026年10月14日（水）15:00～17:00
 会場：関西大学 梅田キャンパス 8階ホール（オンライン併用）
 実践報告：探究の“ねらい”と大学・社会の接続 ～文理探究科への学科改編を通じて～
 大西 弘記 氏（大阪府立狭山高等学校 首席）
 講演：①高校・大学・社会の接続における探究学習の意味
 — コンピテンシー・ベースの教育改革の視点から —
 石井 英真 氏（京都大学大学院 教育学研究科 教授）
 ②企業経営の疑似体験による「正解のない答え」を導く思考力の育成
 坂口 憲一 氏（THINKBASE ACADEMY 代表／中小企業診断士）
 ファシリテーター：池田 文人 氏
 （高大連携部会推進委員／大阪公立大学 国際基幹教育機構 教授・学長補佐、アドミッションセンター長）

高大連携フォーラムチラシ



取組2 会員大学情報の発信

目標	・ 高校生のニーズが高い情報を厳選して会員大学から収集している。 ・ 高校生に届きやすい方法で会員大学情報を発信している。
数値目標	・ 活用割合：会員大学数の80%以上の大学数／各年 ・ ホームページの該当ページの閲覧数：倍増／計画期間内
活動指標	・ 実施回数：1～2回／各年
実績	・ 4回実施（オープンキャンパス情報、学びWEBフェア、高校生応援プロジェクト外、共通大学案内チラシ） ・ 会員大学によるHPの活用割合：100.0%（42校/会員42校） ・ 高校生カテゴリページ閲覧数：9,500回（2026年4月1日～8月31日までの集計）

【オープンキャンパス情報の発信】

https://www.consortium-osaka.gr.jp/osaka_univ

- ・ 大学コンソーシアム大阪のホームページにて会員大学のオープンキャンパス情報を集約して掲載し、高校生が年間を通して各大学の最新情報を効率的に収集できる環境を整えている。
- ・ スマートフォンからの閲覧を想定した画面構成や情報の検索性を高めるなど、より多くの高校生や保護者に活用してもらえるよう利便性の向上に努めている。

【大阪の大学「学び」WEBフェア】

https://www.consortium-osaka.gr.jp/osaka_univ/webfair

- ・ 大学コンソーシアム大阪のホームページにて会員大学合同説明会を実施している。本取組では、高校生や保護者が時間や場所に制約されることなく、会員42大学の大学情報を一度に閲覧できる機会を提供している。
- ・ 今年度は、高校生が興味・関心を持ちやすく、各大学の特色や基本情報へ直感的にアクセスできるよう、WEB大学説明会としての特性を意識したデザインに刷新し、各大学のホームページやSNSにアクセスするリンクを設置するなど掲載コンテンツや導線の充実を図った。
- ・ 本取組を含む高校生向け進路支援施策や大阪の大学の魅力を広く発信するための案内チラシを140,000部作成し、大阪府教育庁の協力のもと、大阪府内の高校2年生に加え、1年生にも対象を広げて配布するとともに、会員大学からも高校訪問を通じて配布した。

【高校生応援プロジェクト】

https://www.consortium-osaka.gr.jp/osaka_univ/project

- ・ 大学コンソーシアム大阪のホームページに、高校生向けに「大学の学び」を紹介する動画コンテンツを集約したページを設けている。会員大学が提供する模擬授業を動画で公開することで、高校生が自宅から大学での学びやその雰囲気を経験できる機会を提供している。
- ・ 2026年度は、30大学の特色ある学びに関するコンテンツを公開し、地域や時間に左右されることなく、各大学の魅力を高校生に届ける情報発信の手段として活用している。

【高校から見た大阪の高等教育の魅力と大学間連携に関する調査】

<https://www.consortium-osaka.gr.jp/platform/plan>

- ・ 今年度は、大阪府内の高等学校を対象に、高校生の進路選択を支援する立場にある教職員への調査を実施した。
- ・ 調査では、高校生や保護者の進路選択における傾向をはじめ、大阪の大学に対する期待や、複数の大学が連携して取り組むことへの期待などについて意見を収集した。
- ・ 調査結果については、今後の高大連携および大学間連携の取組を検討・推進する際の参考として活用する。



「大阪の大学「学び」WEBフェア」
共通大学案内チラシ

課題2 単位互換プログラムのさらなる充実

月	会議	行事等
4		前期科目開講
5	第1回広域単位互換ネットワーク運営協議会（21日） 第1回推進委・単互実務委合同会議（28日）	
7	第1回部会（2日）	広域単位互換 夏募集開始（3日～）
8		追加募集科目 出願開始（20日～） 集中科目開講
9		後期科目開講

取組1 単位互換事業

<https://www.consortium-osaka.gr.jp/tg>

目標	・センター科目と各大学が担当するオンキャンパス科目の役割やねらいが明確になっている。 ・各大学の強み、ネットワークを活かして「大阪の特徴・魅力」を総合的に学べる機会を提供している。
数値目標	・学生送り出し校数：包括協定校の60%以上の大学数／各年
活動指標	・実施回数：1回／各年
実績	・1回実施 ・学生送り出し校数：包括協定校の57.5%（23校/協定校40校※） ※協定校数について 大阪公立大学、大阪府立大学、大阪市立大学は、それぞれを1校として計上。

<大学コンソーシアム大阪 単位互換事業>

【センター科目】

- ・提供科目数は、新規提供科目を含む計18科目で、前年度（17科目）から1科目増加した。
- ・出願者数は542人で、前年度同時期（594人）と比較して52人減少した。
- ・提供科目には、災害報道を扱うジャーナリズム科目が新たに加わるなど、学生の多様な関心に対応した構成となっている。
- ・提供科目18科目のうち9科目でオンライン形式を取り入れ、学生に柔軟な学修機会を提供している。

【オンキャンパス科目】

- ・提供科目数は479科目で、前年度（466科目）から13科目増加した。
- ・出願者数は167人で、前年度同時期（176人）と比較してほぼ横ばいとなった。

<出願実績>

科目群	項目	2026年度 (春募集時点)	2025年度 (最終実績・参考)
センター	科目数	18	17
	出願校数	19	23
	出願者数	542	789
オン キャンパス	科目数	479	466
	出願校数	18	20
	出願者数	167	280

※出願者数は在籍大学での承認不可者数および辞退者を除いた数を示す。

＜広域単位互換事業＞

- ・単位互換制度のさらなる充実を目指し、広域単位互換制度の趣旨に賛同する大学コンソーシアムによる「広域単位互換ネットワーク」を2024年7月に設置した。
- ・現在、大阪、函館、静岡、広島、京都、石川の6団体が連携し、各地域の特色を活かした科目を提供している。
- ・大学コンソーシアム大阪から、春募集に1科目、夏募集に2科目を提供した。
- ・春募集では、大学コンソーシアム大阪の提供科目に11人の出願があった。また、他団体提供科目への出願は6科目に計9人であった。
- ・夏募集では、8月末時点で、他団体が提供する2科目に計6人の出願があった。

＜出願実績＞

団体	科目名	募集期	出願数
広島	平和と人権A(ヒロシマと国際平和)	春	0
	地域教養ゼミナールB「英語で伝えるヒロシマ」		0
	里海再生のための陸～川～海パートナーシップ策に関する演習		2
	スマート酪農科学演習 ―情報科学が次世代の乳牛管理を変える?―		0
	命の尊厳を涵養する食農フィールド科学演習		2
	職業観と倫理	夏	0
	瀬戸内海の養殖水産物を学ぶ総合演習		0
石川	石川食文化の魅力と健康:食の宝庫いしかわ「魚を食べて元気澁刺」	春	1
	地域と文学		1
	石川県の市町		0
	能登復興学実践論 ―人と繋がり、未来を共創する―		1
	創造的復興論	夏	3
京都	京都共創プロジェクト実践1(PBL)	春	0
	特殊講義(専門XIV)「空間エンタテインメント概論」		0
	特殊講義(教養E)I「京都の文化遺産とその保護～清水地域の防災への取り組み」		0
	スタディツアー「バングラデシュ3つの宗教文化を体験する」	春・夏	2
静岡	南アルプスの自然	夏	3
	農林業		0



単位互換履修生募集ガイド



広域単位互換 春募集チラシ

課題3 キャリア教育プログラムの充実と支援体制の強化

月	会議	行事等
5	第1回インターンシップ推進委・キャリア支援推進委合同会議（11日）	就業体験型 学生向け説明会（7日） 就業体験型 学生出願期間（7日～22日）
6		就業体験型 面接・選考（7日）
7	第1回部会（15日）	就業体験型 事前研修（5日） 第1回大学等教職員向けセミナー（16日）
8	第2回インターンシップ推進委・キャリア支援推進委合同会議（19日）	就業体験型 実習期間（～9月中旬まで）
9		第2回大学等教職員向けセミナー（24日）（予定） 就業体験型 事後研修（27日）（予定）

取組1 就業体験型プログラム

<https://www.consortium-osaka.gr.jp/career>

目標	・参加した学生が社会人としての心構えや「働くこと」についての理解を深め、より高い意識で大学での知識・能力・技術の習得に励もうと考えている。 ・留学生、障がい学生、社会人学生など多様な学生と社会をつなぐ機会となっている。
数値目標	・学生送り出し大学数：会員大学数の60%以上の参加大学数／各年 ・参加学生数：150人以上／各年 ・受入企業数：100社以上／各年
活動指標	・実施回数：1回／各年
実績	・1回実施 ・学生（実習者）送り出し大学数：26.2%（11校/会員42校）

<実績>

区分	指標	2026年度	2025年度	増減	前年比
大学数	出願校数	11	15	-4	73.3%
	マッチング校数	11	13	-2	84.6%
	送出校数	11	13	-2	84.6%
企業数	エントリー件数	94	104	-10	90.4%
	マッチング件数	66	74	-8	89.2%
	受入件数	66	72	-6	91.7%
学生数	エントリー数	129	179	-50	72.1%
	マッチング数	119	152	-33	78.3%
	実習者数	117	148	-31	79.1%

- ・本プログラムでは、大学生に対して企業等での実習機会を提供し、今年度は11校から117人の学生が実習に参加した。
- ・大学、企業、学生のいずれも参加規模は前年度を下回った一方、学生のマッチング成立率は前年度を上回っており、企業等との連携による実習機会を一定規模で確保することができた。
- ・今後は、参加大学の拡大に向けた働きかけを進めるとともに、学生と企業とのより適切なマッチングにつなげていく。

取組2 プロジェクト型プログラム

<https://www.consortium-osaka.gr.jp/career/project>

目標	・参加した学生が現場での経験により、より高い意識で大学での知識・能力・技術の習得に励もうと考えている。 ・学生による提案内容が連携先企業をはじめ、社会的に評価・関心を高めている。
数値目標	・学生送り出し大学数：会員大学数の25%以上の参加大学数／各年 ・参加学生数：30人以上／各年
活動指標	・プログラム本数：2件以上／各年
実績	・新規実施なし

- ・従来実施してきたプロジェクト型プログラムについては、近年、参加学生数の減少や実施体制に課題がみられることから、今年度は新規のプログラムを実施せず、大学間連携として実施する意義や実施形態について再検討を行う。

取組3 低学年向けプログラム

<https://www.consortium-osaka.gr.jp/career/quest>

目標	・参集型では難しかった遠隔地や特殊な現場など、これまで知る機会がなかった仕事について、学生が具体的なイメージを持つことができている。 ・学生が、プログラムを通じて企業活動の意義とそこで働く人の役割の一端を理解している。
数値目標	・学生送り出し大学数：会員大学数の25%以上の参加大学数／各年 ・参加学生数：60人以上／各年
活動指標	・実施回数：3回以上／各年
実績	・新規実施なし

- ・低学年層を対象としたキャリア支援については、これまでの参加状況等を踏まえ、今年度は実施を見送り、今後の目的・対象・実施方法について再検討を行う。



就業体験型プログラム 実習の様子①



就業体験型プログラム 実習の様子②

取組 4 キャリア支援事業

目標	・ 時宜に応じたキャリア支援の課題に会員大学が連携して対応している。 (就職に困難性のある学生に対する支援、学生の多様性に対する支援など) ・ 就職支援のための関連団体との連携が拡大し、充実した支援を実施している。
数値目標	・ 参加大学数：会員大学数の 25%以上の参加大学数／各年
活動指標	・ 開催回数：1 回以上／各年
実績	・ 「大学等教職員向けセミナー」(大阪府との共催) 5 回開催予定(第 1 回：7 月 16 日、第 2 回：9 月 24 日、第 3 回：10 月 22 日、 第 4・5 回：日程調整中)

【大学等教職員向けセミナー】

- ・ 大阪府との共催により、発達障がいグレー学生の就労支援をテーマとした「大学等教職員向けセミナー」を全 5 回開催する。
- ・ また、大阪府内地域連携プラットフォーム「分科会 2」において、大阪府の「大阪の未来社会を支える若者・企業応援事業」と連携し、同テーマに関する意見交換や情報共有を行っている。

回	内 容	参加者数
1	■学生の個性を踏まえた就職支援と職場定着 ー大学と企業で考える“活躍できる環境づくり”ー 日時：2026 年 7 月 16 日(木) 14:00～16:30 会場：キャンパスポート大阪	22 人 (うち会員 6 大学 6 人)
2	■越境から始まる相互理解 ー大学と企業が共有する教育的価値と、連携の境界線ー 日時：2026 年 9 月 24 日(木) 13:30～17:00 会場：TKP ガーデンシティ PREMIUM 大阪駅前	-人 (うち会員-大学-人)
3	■地域で育ち、地域で輝く ー地元就職後の『定着』を支える産学官の継続的な伴走体制ー(仮) 日時：2026 年 10 月 22 日(木) 13:00～17:00(仮) 会場：TKP ガーデンシティ PREMIUM 大阪駅前	-人 (うち会員-大学-人)

課題4 国際交流の活性化

月	会議	行事
5	第1回推進委（12日）	
6		外国人留学生向け特設ページ更新（29日）（常設） 学生英語プレゼンテーションコンテスト 発表者募集開始（16日～）
7	第1回部会（27日）	
8		学生英語プレゼンテーションコンテスト 運営メンバー募集開始（26日～）

取組1 他国・他地域との交流事業

<https://www.consortium-osaka.gr.jp/international>

目標	・明確な目的をもって、国際交流事業を実施している。 ・さまざまな交流プログラムを検討・実施している。
数値目標	・交流事業数：延べ5事業／計画期間
活動指標	・交流事業開催回数：1回以上／各年（再開以降）
実績	・外国人留学生向け特設ページ設置（常設）

- ・外国人留学生への情報発信を目的として、2025年3月に大学コンソーシアム大阪ホームページ内に「外国人留学生向け特設ページ」を開設した。
- ・今年度は22校から情報提供を受け、掲載内容の充実を図った（昨年度18校）。

【外国人留学生向け特設ページ】<https://www.consortium-osaka.gr.jp/international>

- ・対象：大学進学を目指す外国人留学生
- ・掲載大学数：22校
- ・対応言語：日本語・英語
- ・掲載内容：
 - ・会員大学紹介（各大学提供情報を掲載）
 - ・大阪での留学生活紹介（インタビュー記事：インドネシア、ネパール、モンゴル等からの留学生7人）
 - ・学べる分野（学術マップ簡易版）
 - ・留学生支援に関する情報（生活・学びに役立つWEBページ紹介）

取組2 グローバル人材育成事業

<https://www.consortium-osaka.gr.jp/student/global>

目標	・日本の現状と課題を認識し、グローバルな社会課題の解決策を考えるきっかけとなっている。 ・多文化共生・異文化理解、ソーシャル・インクルージョン（社会的包摂）という価値観を育む機会となっている。
数値目標	・講座受講者数：延べ300人以上／計画期間内
活動指標	・講座開催回数：2回以上／各年 ・国際交流イベント開催回数：1回以上／各年
実績	・グローバル人材育成講座：実施なし ・国際交流イベント：下半期に開催予定（大阪まちあるきツアー）

【グローバル人材育成講座】

- ・近年の学生の参加状況や運営体制を踏まえ、今年度は実施を見送る。

【国際交流イベント「大阪まちあるきツアー」】

- ・「大阪のまち」を題材としたまちあるきを通じて、国内学生と留学生が交流する機会を創出する。今年度は10月から企画・運営を担う学生メンバーを募集し、2027年3月中旬にツアーを実施予定である。

取組3 学生英語プレゼンテーションコンテスト

https://www.consortium-osaka.gr.jp/student/en_presentation

目標	・学生が発表に至るまでにグループワークを重ね、プレゼンテーションスキルを学ぶ機会となっている。 ・国際共通語としての「英語」を用いて、国際的な共通課題の解決策を斬新な発想で考え、意見交換する機会となっている。
数値目標	・会員大学数の 50%以上の参加（発表大学、運営学生、当日の来場者等）／各年 ※2024 年度に目標を改定 ・参加者数：英語圏以外の留学生の参加増／計画期間内
活動指標	・開催回数：1 回／各年
実績	・1 回開催予定（12 月 6 日）

<開催概要>

日 時：2026年12月6日（日）10：00～17：00
会 場：関西大学 梅田キャンパス 8階 大ホール
発表テーマ：「Beyond 2030 — 自分たちの SDGs を創り出そう、大阪から未来を描く」

- ・高い国際意識やコミュニケーションスキルを有する学生の育成を目的に、毎年開催している。今年度は、2030 年以降の持続可能な社会を見据え、SDGs の視点と「大阪」という地域性を取り入れながら、学生が自身の専門分野を生かして社会課題の解決策を提案するテーマを設定した。
- ・出場チームは、日本人学生 1 名以上を含む 2～4 名で構成し、複数大学の学生による混合チームでの参加も可能とするなど、所属大学の枠を超えて英語を共通言語として協働する機会としている。
- ・また、司会進行や交流会の企画・運営を担う学生チームを編成し、準備段階から当日の運営まで学生が主体的に参画することで、リーダーシップやマネジメント能力の向上を図る。

課題5 地域連携の促進による大阪・関西の活性化

月	会議	行事等
4		地域連携学生フォーラム 発表者募集開始（初旬）
5		
6	第1回推進委（2日）	
8	第1回部会（4日）	地域連携学生フォーラム 運営学生活動開始（21日） 地域連携学生フォーラム 発表者募集締切（21日）
9		地域連携学生フォーラム 観覧者募集開始（中旬）
10		地域連携学生フォーラム（10日）

取組1 地域連携 学生フォーラム in Osaka

https://www.consortium-osaka.gr.jp/student/gakusei_forum

目標	・大学と行政・事業者等のコラボレーションが自発的に起こっている。 ・学生の提案事項や連携のノウハウが蓄積され、それらを会員大学や自治体が共有している。 ・大阪・関西万博に向けて、学生がつながり、関わる場となっている。
数値目標	・会員大学数の50%以上の参加（発表大学、運営学生、当日の来場者等） ／計画期間内 ※2023年度に目標改定 ・参加する行政・事業所数：15団体以上／計画期間内
活動指標	・開催回数：1回／各年
実績	・1回開催予定（10月10日）

- ・会員大学の学生が、自ら取り組む地域活動や社会課題解決に向けた取組等を発表し、他大学の学生や行政・事業者との交流を図ることを目的に開催する。
- ・今年度は、発表形式を従来のポスター形式から口頭発表形式に変更した。また、運営学生の活動開始時期を従来の5月下旬から8月下旬に見直し、より集中的に活動できる期間設定とすることで、学生のモチベーション維持を図った。
- ・フォーラムの企画・運営には7大学10人の学生が参画し、当日は9大学12事業の発表を予定している。

<開催概要>

開催日時：2026年10月10日（土）10：00～17：00
 会場：近畿大学 東大阪キャンパス アカデミックシアター 実学ホール（2号館1階）
 発表数：9大学12事業
 テーマ：I♡大阪 このまち めっちゃ好きやねん ―Z世代の未来の学び みんなで知ってみやん？
 運営学生数：7大学10人

取組 2 地域連携交流サロン

https://www.consortium-osaka.gr.jp/staff/info_meeting

目標	・大学と行政・事業者等のコラボレーションが自発的に生まれている。
数値目標	・参加大学数：会員大学数の50%以上の参加大学数／計画期間内 ・参加する行政・事業所数：10団体以上／計画期間内
活動指標	・開催回数：1回以上／各年
実績	・1回開催予定（11月25日）

- ・地域連携交流サロンは、大学・行政・事業者が一堂に会し、実践事例や課題を共有することで、新たな連携の契機を創出することを目的としている。
- ・今回は、大阪国際大学と徳島県との連携事例をもとに、個人や小さな実践から始まった取組を、組織的・継続的な地域連携へ発展させるための方策について、参加者同士で考える内容とする。

<開催概要>

開催日時：2026（令和8）年11月25日（水）18：00～20：00（予定）
 会場：キャンパスポート大阪
 テーマ：連携のタネの育て方—小さく生んで大きく育てる—個人から組織へ広がる地域連携のヒント
 話題提供：北川 安曇 氏（徳島県 経済産業部 関西本部 本部長）（予定）
 池田 寛之 氏（大阪国際大学 地域協働センター 課長代理）
 楠原 由紀雄 氏（大阪国際大学 地域協働センター センター長）
 司会・コーディネーター：久 隆浩 氏（近畿大学 名誉教授・大学コンソーシアム大阪 地域連携部会 推進委員長）

課題6 研修による大学教職員の資質向上とネットワーク強化

月	会議	行事
4		インストラクショナルデザイン（ID）研修（オンデマンド研修・常設）
5		
6	第1回推進委（22日）	初任者SD研修（第1回）（19日）
7	第1回部会（28日）	サロン（第1回）（17日）
8	第2回推進委（24日）	
9		初任者SD研修（第2回）（9日）

取組1 各種研修

目標	・会員大学のニーズに応じた研修を実施している。 ・研修講師を担える人材の育成が図られている。
数値目標	・教職員送り出し大学数：会員大学数の25%以上の参加大学数／各年
活動指標	・実施回数：2回以上／各年
実績	・初任者SD研修：2回実施（年間3回実施予定） ・インストラクショナルデザイン（ID）研修（オンデマンド）：HPに常設

【初任者SD研修】

<https://www.consortium-osaka.gr.jp/staff/sd>

- ・初任者SD研修は、大学職員として必要な基礎的知識やスキルの習得と、大学間ネットワークの形成を目的に、全3回の対面研修として実施している。
- ・今年度は、「基本姿勢」「業務遂行力」「学び続ける姿勢」を段階的なテーマとして設定し、第1回・第2回を実施した。第3回は11月に開催を予定している。
- ・第1回は15校49人、第2回は10校24人が受講し、現職の大学職員を講師とした実践的な研修を行った。

回	内 容	受講者数
1	■輝く大学職員としての最初の一步！ 日時：2026年6月19日（金） 14：00～16：20 会場：貸会議室ティーオージー大阪 講師：佐藤 浩輔氏（大阪体育大学 庶務部 学長室担当 チーフ） 加藤 敦也氏（大阪産業大学 人事部 人事課 主任）	15校49人 （うち会員外2校2人）
2	■初任者が身につけたい業務の進め方～ケーススタディを通して考える～ 日時：2026年9月9日（水）14：00～16：30 会場：キャンパスポート大阪 講師：佐藤 浩輔氏（大阪体育大学 庶務部 学長室担当 チーフ） 加藤 敦也氏（大阪産業大学 人事部 人事課 主任） 清村 雅人氏（追手門学院大学 総務部 人事課） 岡本 紗綾氏（大阪医科薬科大学 人事部 人事課 主任）	10校24人 （うち会員外2大学2人）

【インストラクショナルデザイン（ID）研修】

▶研修概要（大学コンソーシアム大阪ホームページ）：<https://www.consortium-osaka.gr.jp/staff/id>

▶研修コンテンツ：<https://donow2016.com/id/2022/>

- ・大学職員が「教え方のセオリー」を学び、自大学でのSD研修企画や業務に活かすことを目的とするオンデマンド講座として、2022年11月より提供している。講師は宮原秀明氏（研修部会推進委員会 委員、大阪学院大学 大学事務長）が務めている。
- ・2026年度の研修概要ページのアクティブユーザー数は、95件（8月31日時点）となっている。
※2025年度実績：222件

取組2 サロン・ド・大学コンソーシアム大阪（SD 勉強会）

<https://www.consortium-osaka.gr.jp/staff/salon>

目標	・参加者が主体的に情報交換や交流を行っている。
数値目標	・会員大学の参加率：会員大学数の60%以上の参加大学数／各年
活動指標	・開催回数：3回以上／各年
実績	・1回開催（年間3回開催予定）

- ・会員大学教職員を対象に、時宜に応じたテーマについて学ぶとともに、参加者同士の情報交換や相互交流を図るSD勉強会として開催している。
- ・今年度は年間3回の開催を予定しており、第1回を7月17日に開催した。第2回・第3回は今後開催を予定している。

回	内 容	参加者数
1	■アカデミック・アドバイジングの実践—個別支援から組織的アプローチへ— 日時：2026年7月17日（金） 18:00～19:30 会場：キャンパスポート大阪 講師：清水 栄子 氏 （愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室・学習支援commons 准教授） 司会：佐藤 浩輔 氏（大阪体育大学 庶務部 学長室担当 チーフ）	17校31人 （うち会員外7校12人）

課題7 大阪の様々な課題に対応した取り組みの拡充

月	会議	行事
4	第1回分科会1(24日)	
5	第2回分科会1(29日)	第1回分科会1企画 共同SD研修(29日)
6	第3回分科会1(26日)	第1回公開講座(5日)※以降、順次開催 第1回大阪∞GAKU(16日)※以降、順次開催 大阪PF 活動報告会(26日)
7	第4回分科会1(31日)	第2回分科会1企画 共同SD研修(31日)
8	第5回分科会1(28日)	
9	第6回分科会1(25日)	MOS 資格取得講座開講(9月16日～11月30日)
10	第7回分科会1(17日)	タイプ3申請(申請締切:31日)

取組1 学生ボランティアの拡充

<https://www.consortium-osaka.gr.jp/student/volunteer>

目標	・事業の企画運営に学生が主体的に関わる機会が創出されている。
数値目標	・学生の参加数:各部会事業への企画・運営に関わった学生数延べ200人/計画期間内
活動指標	・既存事業やその他事業へ学生ボランティア参画:2事業以上/各年
実績	・1事業実施中(年度内3事業予定)

- ・地域連携や国際交流等の事業運営に学生が主体的に参画し、大学の枠を超えて協働する機会を提供している。
- ・今年度は、地域連携学生フォーラム、学生英語プレゼンテーションコンテスト、国際交流イベント(大阪まちあるきツアー)の3事業で学生の参画を予定している。このうち、地域連携学生フォーラムでは、8月下旬から運営学生による企画・運営活動を開始している。

取組2 連携調査・研究の実施

目標	・大学間、また産官学の連携による調査や研究が恒常的に実施されている。
数値目標	・連携調査・研究実施数 延べ15件/計画期間内
活動指標	・連携調査・研究テーマ数 2テーマ以上/各年
実績	・調査:2テーマ ①新入生対象 薬物に関する意識調査 ②高校生の進路検討に関するニーズ調査

- ・大学間、また産官学の連携による調査・研究として、会員大学の新入生を対象とした「薬物に関する意識調査」と、大阪府内の高校を対象とした「進路検討に関するニーズ調査」の2テーマを実施した。
- ・「薬物に関する意識調査」は5月に実施し、調査結果をもとに、9月の大阪府内地域連携プラットフォーム分科会1において共同IRを実施する。
- ・「進路検討に関するニーズ調査」については、高大連携事業として実施している(詳細は「高大連携部会」の項を参照)。

取組 3 地域課題に対応した取り組みの推進

目標	・産官学連携による課題解決体制が整備されている。
数値目標	・実施事業数 延べ 5 事業／計画期間内
活動指標	・実施事業数 1 事業以上／各年
実績	・5 事業実施（実施中を含む） （大阪∞GAKU、共同 SD 研修、公開講座、MOS 資格取得講座、活動報告会）

【大阪府内地域連携プラットフォームの取組】

<https://www.consortium-osaka.gr.jp/platform>

<大阪∞GAKU（大学教職員研修）>

・大学教職員を対象に、教育改善や資質・能力の向上に資する研修を実施している。2025 年度から「大阪∞GAKU（おおさか むげん がく）」の呼称を設定し、大学の枠を超えて学び合い、交流する機会として展開している。

回	内 容	受講者数
1	■VUCA 社会×生成 AI 時代に、学生のアントレプレナーシップをいかに醸成するか 日時：2026 年 6 月 16 日（火）13：30～15：10 会場：オンライン（Zoom） 講師：山田 剛史氏（関西大学 教育推進部 教授）	29 人
2	■大学マーケティングへの IR データの活用 日時：2026 年 8 月 25 日（火）14：00～16：10 会場：キャンパスポート大阪 講師：安田 傑氏（大阪大谷大学 人間社会学部 心理・福祉学科 教授）	6 人
3	■AI を活用した授業学習支援 日時：2026 年 8 月 27 日（木）14：00～15：40 会場：オンライン（Zoom） 講師：岩居 弘樹氏（藍野大学 医療保健学部 健康科学科 特任教授）	35 人
4	■「自分を後回しにしない」から始める女性ヘルスケア ～誰もが無理なく、しなやかに働き続けるために～ 日時：2026 年 9 月 8 日（火）15：30～16：40 会場：オンライン（Zoom） 講師：西村 亜佐子氏（大阪医科薬科大学 臨床薬学教育研究センター 准教授）	35 人

<分科会 1 企画 共同 SD 研修>

・大阪府内地域連携プラットフォーム分科会 1 の企画により、「私立大学等改革総合支援事業（タイプ 3・プラットフォーム型）」を契機として、大学間連携の取組や課題を共有し、既存事業の改善や新たな連携につなげることを目的とした共同 SD 研修を実施している。

回	内 容	受講者数
1	■大学連携の実践と展開を考える ― タイプ 3 の実践知から考える共創と実装 ― 日時：2026 年 5 月 29 日（金）14：00～17：00 会場：大阪体育大学 同窓会館 アネックス 講師： ・城戸 直也氏（追手門学院大学 大学政策部学事課 課長） ・森 美香子氏（帝塚山学院大学 社会連携機構事務局 室長補佐） ・佐藤 浩輔氏（大阪体育大学 庶務部学長室担当） 司会・コーディネーター： ・田中 秀岳氏（大阪工業大学 学長室会計課 係長） ・井上 由貴子氏（大阪女学院大学 事務局次長）	17 大学・ 2 団体 38 人
2	■限られた資源で成果を最大化する大学間連携を考える：既存事業の再設計による新たな価値の創出 日時：2026 年 7 月 31 日（金）14：00～17：00（情報交換会 17：00～18：00） 会場：キャンパスポート大阪（大阪駅前第 2 ビル 4 階） 講師： ・佐藤 浩輔氏（大阪体育大学 庶務部学長室担当） ・森下 貴史氏（桃山学院大学 大学統括部学長室 課長補佐） ・野口 智広氏（大阪電気通信大学 大学事務局学事部学事課 主査） ・深 由香利氏（藍野大学 大学事務センター学生支援グループ グループ長） ・田中 秀岳氏（大阪工業大学 学長室会計課 係長） 司会・コーディネーター： ・城戸 直也氏（追手門学院大学 大学政策部学事課 課長） 情報提供： ・大学コンソーシアム大阪事務局	22 大学・ 1 団体 43 人

<大阪の知の連携×公開講座>

- ・会員大学の知を広く地域・社会に還元することを目的に、大阪・関西の地域課題や文化等をテーマとした公開講座を実施している。今年度は計 11 講座を実施予定である。

回	テーマ・講師	開催日	受講者数
1	■インドネシア民主主義の現在 今村 祥子氏(追手門学院大学 国際学部 准教授)	6月5日	18人
2	■川口居留地と女学校から見る大阪の近代化 朴 賢淑氏(大阪女学院大学 国際・英語学部 准教授) ※2026年度 大阪女学院大学・大阪女学院大学短期大学 ウキルミナ公開講座と共催	6月6日	9人
3	■スポーツの未来をデザインする:心身の伸びしろを育むコーチング 小倉 幸雄氏(大阪国際大学 人間科学部 学部長)	7月9日	15人
4	■何気ない地域の魅力の見つけ方 ―大阪の地下鉄を例に― 森重 昌之氏(阪南大学 国際学部 国際観光学科 教授)	7月11日	33人
5	■キャリアデザインと自己効力感 水野 武氏(摂南大学 全学教育機構 准教授)	7月16日	24人
6	■ロボットは他者となり得るか ―対人魅力の観点から考える― 一蔵口 佳奈氏(四天王寺大学 社会学部 社会学科 講師)	7月18日	16人
7	■大阪のものづくり―中小メーカーの魅力 廣田 義人氏(大阪工業大学 知的財産学部 教授)	8月1日	15人
8	■「出産」は当たり前じゃない! ～出産文化の歴史と未来～ 伏見 裕子氏(近畿大学 文芸学部 文化・歴史学科 講師)	9月5日	11人
9	■居場所の形と人の想いの関係から考えるまちづくり 寶珍 宏元氏(大阪電気通信大学 建築・デザイン学部 建築・デザイン学科 空間デザイン専攻 講師)	9月17日	集計中
10	■めまいの謎を解き、未来の治療への挑戦 田浦 晶子氏(藍野大学 医療保健学部 臨床工学科 教授)	9月19日	集計中
11	■ストレスとうまく付き合っていますか? 美王 真紀氏(大阪信愛学院大学 看護学部 看護学科 准教授)	10月2日	—

<MOS 資格取得講座>

- ・社会人のキャリアアップや学び直しを支援するため、MOS 資格取得を目指すオンデマンド講座 (Word、Excel、PowerPoint) を実施する。

開催期間：2026年9月16日～11月30日
 実施方法：オンデマンド
 講座：Word、Excel、PowerPoint
 対象：キャリアアップ等を目的にMOS資格取得を目指す社会人
 受講者数：計 10 人 (Word：2 人、Excel：5 人、PowerPoint：3 人)

<大阪府内地域連携プラットフォーム 活動報告会>

- ・大学間連携による取組成果の発信を目的として、2025 年度に実施した新入生対象「薬物に関する意識調査」に係る共同研究の活動報告会を開催した。5 年間・7 万件超の調査データから見えてきた学生の意識や課題、予防啓発・学生支援への活用可能性等について報告し、共同研究の成果を共有した。

開催日時：2026 (令和8) 年6月26日 (金) 14:00～14:45
 会場：オンライン (Zoom)
 テーマ：大学連携は、学生支援に何をもたらすのか。大阪の大学連携から生まれた共同研究と学生支援
 ― 5年間・7万件超の新入生対象薬物意識調査の実践から ―
 参加者：25名

【分科会 1 を中心とした共同取組の推進】

- ・大阪府内地域連携プラットフォームでは、会員大学による共同取組を具体化・推進するため、分科会 1（事務局代表者会議）を設置している。
- ・分科会 1 のもとにプロジェクトリーダー（PL）を置き、公開講座、共同 SD 研修、共同 IR、共同研究について、会員大学が主体となって企画・検討を進めている。
- ・今年度は、令和 8 年度「私立大学等改革総合支援事業（タイプ 3・プラットフォーム型）」への申請も見据えながら、各 PL を中心に既存の共同取組の充実や新たな取組の具体化を進めている。

取組 4 大阪・関西万博との連携

目標	・万博への積極的な参画を通じて大阪・関西の活性化に寄与している。
数値目標	・実施事業数 延べ 10 事業／計画期間内
活動指標	・実施事業数 2 事業以上／各年
実績	・ 1 事業実施 SDGs や万博をテーマとした単位互換科目（センター科目）1 科目を提供

- ・これまでの大阪・関西万博との連携を踏まえ、SDGs や万博をテーマとした単位互換科目を継続して提供している。